

「今、利用している人だけの図書館でいいですか」

～すべての人が行きたくなる図書館を目指し資料収集を考える～

嶋田 学（瀬戸内市民図書館もみわ広場）

はじめに

「今、利用している人だけの図書館でいいですか」という問いの意味は？

→ 今、利用していない人にも利用されるような図書館にしませんか？という問い。

「すべての人が行きたくなる図書館を目指し資料収集を考える」という課題

→ まだ、図書館を利用していない人が、利用してみたい、と思えるような資料収集とは？

→ そして、成果としての蔵書構成とは？

◎資料収集とは・・・

図書館の蔵書(コレクション)を構築するための、組織的、意識的な資料選択の連続的な営為。

◎蔵書(コレクション)とは・・・

資料選択によって構築される図書館資料の集合体

◎残念な、資料収集とは・・・

- ・ 同じような難易度、価格帯のものばかりを選ぶ
 - ・ よく貸出される資料ばかりを選ぶ
 - ・ 詳しくない分野の資料は選ばない
 - ・ 一定以上の価格の資料は買わない
 - ・ その週のリストの中でベストチョイス
 - ・ 蔵書全体の分野構成を考えないで選ぶ
- 無難な選書 ⇔ 組織的、意識的でない資料選択の連続的な営為。

1. コレクションとは

図書館資料によって構成される提供資源の集合体

図書、雑誌、新聞、視聴覚資料（フィルム、ビデオ、DVD、レコード、CD）、冊子資料、パンフレット、リーフレット、電子媒体情報（CD-ROM等）

2. コレクションづくりとは

1) コレクションを構築すること

→ 資料選定（図書選択）という営為

→ 「結果」または「成果」としての蔵書構成（コレクション構造の諸相）

2) コレクションは「結果」か「成果」か？

◎結果としてのコレクション

→ 利用者要求の付度、リクエスト、話題の出版物などをもとに資料選定した結果としての蔵書状態。

◎成果としてのコレクション

→ 利用者要求も踏まえつつ、諸要件によって蔵書を組織的意識的に形成した蔵書状態。

3) コレクションの構成要素

◎種別蔵書

図書館の目的や図書の目的を区分原理とする

児童書 入門書 実用書 概説書 学術書 研究資料

◎主題別蔵書構成

主題分類を区分原理とする。NDC分類ごとの蔵書冊数、比率の諸相

◎形態別資料構成

資料の形態を区分原理とする

3. コレクション構築に勘案されるべき条件の諸相

1) 利用者の諸相（対象のセグメント）

◎年齢区分 児童 → 乳幼児、幼児、小学生、中学生、高校生、十代青少年、勤労青少年
成人 → 若年層、中年層、壮年層、前期高齢者、後期高齢者

◎職業属性 無職、自営業、事務職、営業職、技術職、職人、サービス業、医療職、看護職、介護職、教職、農林水産職、その他の専門職、家事職

◎個人特性 健常者、障がい者（身体、精神、発達）およびその家族、難病罹患者およびその家族、生活困窮者、多様な性、

◎その他の属性 外国人、留学生

2) 地域社会の属性

◎地理的属性 都市部、近郊部、田園地域、中山間地域、山間部

◎産業的属性 農林水産地域、製造業地域、商業地域、住宅地域

◎地域歴史属性 古くからの居住地（城下町、門前町）、戦後開発された居住地、合併自治体、非合併自治体、

◎自治体政策的属性 自治体総合計画、福祉施策、教育文化施策、産業経済施策

4. コレクション形成にかかる法的側面

1) 図書館法、学校図書館法、大学設置基準

図書館法（定義）

学校図書館法（定義）

大学設置基準（昭和 31 年 10 月 22 日 文部省令第 28 号）

2) 公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 13 年 7 月 18 日文部科学省告示第 132 号）

二 市町村立図書館

（二）資料の収集、提供等

三 都道府県立図書館

（六）資料の収集、提供等 都道府県立図書館は、三の（九）により準用する二の（二）（*）に定める資料の収集、提供等のほか、次に掲げる事項の実施に努めるものとする。

3) その他の倫理規定

①「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会 1954 年採択 1979 年改訂）

第 1 図書館は資料収集の自由を有する

第 2 図書館は資料提供の自由を有する

②図書館員の倫理綱領（日本図書館協会 1980 年 6 月 4 日 総会決議）

（資料に関する責任）

第 4 図書館員は図書館の自由を守り、資料の収集、保存および提供につとめる。

第 5 図書館員は常に資料を知ることにつとめる。

第 1 2 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。

5. コレクションの役割と機能

1) コレクションの役割

◎教育的役割 ◎調査研究的役割 ◎文化的役割 ◎趣味、余暇の充足

◎社会基盤の維持向上（治安、リテラシー）

2) コレクションの機能

◎記録保存機能 ◎教材機能 ◎情報伝達機能

6. 資料選択の考え方

1) コレクションの構成要素および構築に勘案されるべき条件を踏まえた意識的、組織的な資料選択

◎「資料収集方針」や「資料選定基準」に基づき、当該年の資料発注計画に基づき選択する。

※資料収集方針とは？

当該図書館の資料収集に関する考え方を示したもので、その目的や選択にかかる基本姿勢や留意事項、資料種別による選択の考え方をまとめたもの。

※資料選定基準とは？

当該図書館における個別の資料選定に際して拠りどころとなる考え方。総則的な基準のほか、NDCの百分類程度の細分で選定の目安を示している。

◎蔵書構成全体のバランスおよび、資料の硬軟、難易、評価等、資料価値に基づき選択する。

→ いわゆる「価値論的資料選択」

2) 利用者の要求にもとづき資料を選択

◎事前選択（潜在的要求への対応）

◎事後選択（顕在化要求への対応）

→ いわゆる「要求論的資料選択」

3) 社会的懸案事項や地域課題に即して潜在要求の仮説を立てて資料を選択（利用の掘起し）

◎諸情勢への対応資料の選択

◎当該地域、自治体、特定コミュニティの課題解決に役立つ資料に対応した選択。

→ 「目的論的資料選択」、あるいは、「潜在的要求掘起し型選択」

明定義人 『〈本の世界〉の見せ方～明定流コレクション形成論』（JLA 図書館実践シリーズ 34）

「住民の求めているものは何か、を考え、予想（仮説）を立て、本を選び、「棚」に並べ、反応を見る（実験）。反応から新たな予想（仮説）を立て、本を選ぶ」

7. 出版世界とコレクションの関係性

1) 出版物を選択すること

2) 出版の表徴的特徴

可視化できるものとしては、出版→陳列→購入または返品→在庫または裁断処分、というフローをたどる。→メタデータ、および古書市場を除いて、書店の瞬間コレクションは市場性に支配される。

3) 図書館コレクションの表徴的特徴

図書館の予算規模により、コレクションとなるのは出版物のごく一部であるが、毎年、選択される資料は、その図書館の物理的限界範囲内で蓄積され、出版表象の一部を経時的に可視化している。

→メタデータ、現物の両方で、当該地域の要求および図書館の組織的な出版物のコレクションが形成されている。公開、提供を前提とした出版保存が限定的に可能。（公共性）

8. 資料選択者としての図書館員

1) コレクションづくりに求められるスキル

◎自館コレクションを俯瞰できること

◎出版世界の諸相を見渡せること

◎利用者が求める資料を選択できること

◎これから利用者になる人が求める資料を選択できること

◎上記の要求への対応を行いつつ、当該地域の図書館の目的にかなったコレクションの諸要素のバランスをとり、適切な蔵書を構築する。

2) コレクションづくりのための実践

◎出版情報をくまなくチェックする

◎書店で現物に触れ、出版物の特性（種別内実、出版社特色等）を知る。

◎自館コレクションを見渡す（排架、書架整理）

◎現利用者のニーズを把握し、要求に応える選書に努める。

◎当該地域の特性を理解し、ニーズの仮説を立て、新たな要求を喚起するよう努める。

◎コレクションがより活きるよう、配架や陳列に工夫を凝らす。

9. 資料選定の実際

コレクションづくりの前に…

→ 自明的なコレクション、資料選定などない。 → 地域それぞれの事情のもとに営まれるもの

・所属図書館を客観的に振り返ること

・所属上位組織を客観的に振り返ること → 所属図書館の経営環境の俯瞰

・選書や蔵書構成について、課題を整理し、「評価」すること

◎所属図書館について

・インプットを知る … 予算（資料費）、人員、施設、連携、図書館費の対一般会計比

・アウトプットを知る … 利用統計（貸出、利用人数、来館者、予約等、参考業務、企画事業）
連携先（市民、行政各部署、民間団体）

◎所属上位組織について

・組織政策を知る ・財政を知る ・文化的特性を知る ・地理特性を知る ・産業特性を知る

・組織文化を知る

◎選書、蔵書構成についての課題

・課題を整理する俯瞰的な視点を意識すること

◎選書、蔵書構成についての課題

課題の性質の分析

・財政課題 → 予算不足、リクエスト購入による圧迫

・組織マネジメント課題 → 組織的選書の不在、人材育成の不在

・資料収集、蔵書構築に関する政策の不在 → 蔵書評価軸とサービス評価軸の相克

「利用者ニーズと蔵書構成とのバランス」

1) 選定以前の準備

◎利用状況調査

予算要求前に、資料種別の利用状況を前年対比（調査月までの数値）で調査する。また、リクエスト購入状況も確認し、利用者ニーズの動向を探る。可能であれば、分類別貸出回転率をNDC3桁ベースで調査する。

◎資料状態調査

資料状態を確認し、買い替え図書、類書補充等の見通しを立てる。

2) 資料選定

◎見計らい選書 ◎リスト選書 ◎選書会議 ◎書店、取次店、出張見計らい選書

3) リクエスト発注

リクエスト発注は、コレクションづくりのための資料選定かどうかという問い。

① リクエストを資料購入で応える理由

- ◎ 当該資料が、リクエスト当事者以外にも利用される見込みが想定される場合。
- ◎ 相互貸借が諸事情により困難な場合。（未所蔵、予約あり、新規提供期間制限）
- ◎ 当該資料の主題資料の類書がないか、僅かしかない場合。

② リクエストを資料購入によって応えない理由

- ◎ 当該資料が、当該館の蔵書構成、資料選定基準になじまない内容の場合。
- ◎ 類書がすでに相当数あり、これ以上増加させたくない場合。
- ◎ リクエスト希望者以外に、当該資料の利用があまり想定できない場合。
- ◎ 絶版、品切れ等で入手できない場合。

※ リクエストは、利用者の資料に対する顕在要求の最たるものである。そうした要求が、当該地域の図書館の蔵書を構築していくことを積極的に捉える姿勢が求められる。

- しかし、それだけでは、顕在化した要求への素朴な反映でしかなく、退屈な図書館になる。
- まだ出現していない主題の要求についても仮説を立てて「選書」（実験）し、棚に並べ、検証して、そこから見えたことをヒントに「仮説」を立てて、選書し、という繰り返しのなかから「利用者を否定しない棚」をつくることができる。

10. コレクションの評価（資料選定の評価）

集めっ放しではダメ。様々に検討した資料選定の結果が、コレクションとして活きているかどうかをチェックする。

1) 蔵書回転率調査 蔵書数÷貸出冊数→高いほどよく利用されている。

2) 分類別蔵書回転率 NDC 分類ごとに、蔵書回転率を調査する。

※ 実際の資料選定のアセスメントに活かそうとするのであれば、3 桁程度は必要。

※ 貸出資料の分類多様性という価値の検討

→ 各主題の資料が、極端な偏りがなく満遍なく利用されている状況。

→ 多様な興味関心に資料提供が応えている蓋然性が高い。

→ 多くの市民が利用している可能性がある。⇔実利用率との照合

3) コレクションの評価から見えること

◎ ニーズ仮説のヒントが見つかる（分類別貸出回転率調査を眺めていて…）

事例：ある分類の蔵書回転率が、少ない蔵書にも関わらず高い。当該蔵書数が少なく、他の資料と同程度のニーズがあれば、相対的に回転率は上がる。

【仮説】 当該主題の類書を増強すれば、もっと利用が増えるのではないかな？

→ 潜在的に資料ニーズがあるのに、図書館がそれと気付かず類書の手当てが出来ていない可能性。

※ 実際に棚を見てみたころ・・・（500～509、530～532）

→ 古い出版にもかかわらず、類書がないため利用されていたのではないかな？

《仮説》：当該図書館には、製造業関連の資料ニーズがある。

→ 補強調査 A 町行政統計「就業種別人口統計」と「業種別事業所統計」

※ ガラス製造、紙工業を中心に製造業従事者が 24% と比較的多かった。

《実践》：蔵書回転率、行政統計で製造業系の資料ニーズが予想できる。これまで当図書館は、この分野の資料購入が弱かったので重点選書を試みた。

→ 6 ヶ月間、重点選書とコーナー（「二ホンのものづくり」）を展開。

結果、当該分野の貸出が、前年同月比、11% 増加した。

《成果》：当該館の開設期からの職員の言葉

「この地域に製造業関連の資料ニーズがあると思わなかった」

◎社会的ニーズが高いのに貸出があまり動いていない。

《状況》：発達障害関連の資料 ※精神医学（493.7）か障害児教育（378）として分類、配架。

《仮説》：①育児（599）の棚で探して見つけれない。

②障害児教育という棚に行きにくい。

③精神医学（こころの病）の棚に行きにくい。

《実践》：児童書コーナー付近に、「子育て応援コーナー」を作り、子育て、家庭教育の本とともに、関連資料を配架したところ、当該分野の貸出が約20%増加した。

1 1. コレクションづくりの仕上げ～配架・陳列～

用意周到に資料を選定し、コレクションとしての完成度を高めたとしても、それが効果的に利用者に伝わり、利用に結びつかなければ意味がない。

1) 配架配列の工夫～前提として考えるポイント～

①棚の並び方…何がどんな順番で並べられているか

②資料の集合…どんな分野のものがひとまとまりの棚を構成しているか

③表示の言葉…ひとまとまりの分野をどんな言葉で表示しているか

◎NDCによる配列では、分散が生じる主題への対処)

※類似主題の傾向

大きな特徴として、6 類（応用分野）が上位概念の主題に吸収される。

6 2 △系→4 7 △系 6 4 △系→4 8 △系

6 7 △系→3 3 △系 6 8 △系→5 3 △ 5 4 △ 5 6 △系

2) コレクションをある文脈で魅せる工夫

中川卓美『サインはもっと自由につくる～人と棚をつなげるツール～』（J L A 図書館実践シリーズ 3 3）

1 2. 児童書について

・子どもたちに「読んでもらいたい」本を選ぶのか？

・子どもたちが「読みたい」と思う本を選ぶのか？

→ 大きな立ち位置の違い

・どちらが、子どもが主役の本棚か？

・どちらが、本に親しむ子どもを増やせるか？

→ 教育成果に力点のある棚と、多様な本の文化との出会いを重視する棚。

※「利用者を否定しない棚」というあり方

1 3. コレクションの賞味期限～除架、除籍という資料選択～

1) 浦安市立図書館で実証された「利用減退 7 年説」

浦安市立図書館の調査では、出版から約 7 年を経過すると、利用が極端に落ちる事が判明。

→ 除架、除籍、類書買替の目安にしている。

2) 資料鮮度がより問われる主題

◎医療系 … 医学書テキストブックの改訂頻度がおおむね5年である。

◎コンピュータ、通信技術系

◎法律系（税財政含）

◎農薬便覧系（使用が禁止されるものが随時発生）